

**【テーマ9】 団体名 国立大学法人北海道教育大学
「へき地・小規模校のICT活用教育を推進する教職カリキュラムの
全国調査及び試行実践的調査研究」**

調査の概要

◆課題認識

学校規模の縮小化に対応し活力ある教育を推進していくためには、ICTを効果的に活用した教育実践が不可欠であり、大学の教員養成段階から指導していくことが必須である。

◆調査の目的

ICT活用教育について、へき地・小規模校における先進事例や学校教育の実践動向、大学の教員養成における取組を調査し、当該教育を教職コアカリキュラムに反映させる。

◆調査の方法

- へき地・小規模校における実践事例など、学校の先進的な事例を捉える。
- 学校の実践事例を踏まえた上で、アンケート調査により学校の傾向を統計的に把握する。
- 学校での実践事例を捉えながら、大学の教員養成における先進的な事例を捉える。
- 大学の実践事例を踏まえた上で、アンケート調査により大学の傾向を統計的に把握する。

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- ①学校現場におけるICT活用教育の取組と可能性を捉えるための現地調査を実施
→鹿児島県徳之島町、鹿児島県、北海道のへき地・小規模校、北海道教育大学附属中学校
長野県木曾の学校、高知県大川村の小中併置校等
- ②北海道内全小学校、中学校、高等学校1, 852校を対象としたアンケート調査を実施
- ③大学における多様な実践事例の特徴と今後の可能性を捉えるための現地調査を実施
→鹿児島大学、北海道教育大学、信州大学、兵庫教育大学、奈良教育大学
- ④教職課程を有する695の国公立大学を対象としたアンケート調査を実施

◆成果

- へき地・小規模校、附属中学校のICT活用教育の実践事例から「個別最適な学び」と「協働的な学び」に対する先進的な開発事例を把握することができた。
- へき地・小規模校を含めた学校現場のICT活用教育と、教職コアカリキュラムへの反映など大学の教員養成におけるICT活用教育の連動の方向性を確認することができた。

今後の課題

- 今回のアンケート調査及び現地調査を踏まえ、学校規模の縮小化・過疎化に対応できる教員を養成するため、ICT活用教育を教職コアカリキュラムに反映させる取組を進める。
- GIGAスクール構想に対応するため、継続して全国の先進事例の調査に取り組み、その結果を大学の教育課程の改善に繋げる。併せて、調査及び改善結果の普及を通して、全国のICT活用教育の開発意識を喚起させる。